

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー 【2017No.67】 (HP 掲載)

分類：CD/SACD

作曲家：アントニン・ドヴォルザーク

曲名：交響曲 第9番 ホ短調 作品95《新世界より》

演奏：イシュトヴァン・ケルテス指揮:ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

発売：ステレオサウンド社

No. : SSHRS-003/004

概要：



2017 大阪サウンドコレクションに行き、ステレオサウンド誌のコーナーで買い求めたもので、前報 (No.67) と同様、ステレオサウンド誌の企画による名盤の復刻版です。解説によれば、ケルテスの気迫に圧倒される名盤とのこと。

「ハンガリー生まれの指揮者イシュトヴァン・ケルテスが 1961 年ウィーン・フィルと初めて録音した歴史的・名演奏・名録音である。ケルテスのこの録音にかけた情熱が聴く者を圧倒する。その気迫は冒頭のティンパニの強打に象徴されていて、まるで指揮台の上で聴いているような錯覚におちいる快感がある。この名録音のマスターテープはデッカ・アーカイヴに保管されていたもので、現地のマスタリングによる「SACD シングルレイヤー+CD」の 2 枚組として発売されたものである。」

収録曲は以下の通りです。

1. 第 1 楽章:Adagio - Allegro molto
2. 第 2 楽章:Largo
3. 第 3 楽章:Scherzo (Molto vivace)
4. 第 4 楽章:Allegro con fuoco

入手した盤は、CD とシングルレイヤーSACD がセットになっており、次のようなルートで再生してみました。また、本盤と同じように高音質をうたった ESOTERIC のリマスターハイブリッド盤とも聴き比べてみました。

① CD : BRD-UT16WX→HFAS1-S10→BS-GS2016/A→Sonica DAC (LAN 入力)

② CD : BRD-UT16WX→HFAS1-S10→Sonica DAC (USB 入力)

③ SACD : Maranz SA11-S2→Sonica DAC (ライン入力)

①の CD の LAN 入力では、非常に鮮明で、CD ながらケルテスの熱演をしのぶことが十分できます。

②の CD の USB 入力では、①よりさらに忠実度がまし、木管や弦も十分に美しく、低弦やティンパニも迫力があります。

③の SACD のライン入力では、ディテールの再現もよくソフトな音です。

演奏は熱のこもった演奏で、マスター由来のノイズもさほど気にならず、名演奏の復活高音質盤と言っていいでしょう。

一方、ESOTERIC のリマスターハイブリッド盤は、迫力はあるものの音が荒く、SACD 層で聴いても払拭できません。両者の間には、かなりリマスタリングのセンスの違いがあるようです。

以上